

2022年6月7日
報道発表資料



News Release

IGRいわて銀河鉄道株式会社

第98回取締役会の内容について

IGRいわて銀河鉄道株式会社(代表取締役社長 浅沼康揮)では、「第98回取締役会」において、下記の点について承認されましたのでお知らせします。

- 【資料1】 2021年度事業報告について p. 1~8
- 【資料2】 2021年度決算概要について p. 9~10
- 【資料3】 2021年度輸送概況について p. 11
- 【資料4】 取締役候補者の選任について p. 12
- 【資料5】 アクションプラン 2021 総括について p. 13~24
- 【資料6】 沿線関連等の取組について p. 25~27

※お問い合わせにつきましては、本日 17時30分まで受け付けておりますので、下記担当までご連絡ください。

IGRいわて銀河鉄道株式会社
総務部 総務グループ(広報担当)
TEL 019-601-9981/FAX 019-601-9997
〒020-0133 盛岡市青山 2-2-8
URL <https://igr.jp/>

事業報告

〔 自 2021年4月1日
至 2022年3月31日 〕

I 会社の現況に関する事項

1. 当事業年度における事業の経過及びその成果

当期における日本経済は、新型コロナウイルス感染症の拡大による緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が発令される状況が続き、行動の自粛などを通して経済活動が抑制され、鉄道各社においても依然として厳しい経営状況が続いています。

岩手県内においても、岩手緊急事態宣言の発令による不要不急の外出自粛の要請など、新型コロナウイルス感染症による影響を大きく受けました。

当社においては、沿線の人口減少に加え新型コロナウイルス感染症の影響を受けたことから、旅客運輸収入の減少や旅行業及び飲食業などの関連事業でも減収となっており、厳しい経営状況が続きました。

このような状況下で、輸送人員は1日平均11,864人となり、年間約433万人にご利用いただき、通勤・通学・通院を中心とした沿線住民の日常生活における交通手段として、コロナ禍においても重要な役割を果たしました。

鉄道の根幹である安全対策については、実車運転訓練会をはじめ、踏切事故防止運動の啓発活動を実施するなど、安全の確保に取り組みました。また、新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、安心して利用できる環境を提供してきたほか、駅及び列車内でのアナウンスや掲示物などで感染防止意識の啓発活動を継続して行いました。社内においても、分散業務体制を整えるなどして、事業継続に向けリスク管理を徹底し、通常運行の維持・確保に努めました。

利用促進については、盛岡～青森間鉄道開通130周年を記念し青い森鉄道と共同で企画した「もりもりフリーパス」や沿線の妊産婦の方を対象とした「IGR HUG PASS」、北岩手地域のシームレスな移動や決済などを目的とした「北いわてMa a S」を活用して企画乗車券を発売することで、鉄道利用者の増加及び地域経済の回復・拡大に向けて取り組みました。

地域との協働については、県北地域への誘客促進や当社の利用促進を目的として、二戸市と一戸町のデザインによるラッピング車両の運行や二戸市からの支援により金田一温泉駅のトイレのリニューアルを行いました。

また、県・沿線市町からの支援（いわて銀河鉄道利用促進協議会事業）を受け、「小学生100円きっぷ」を発売しました。そのほか、高校生を中心とした「PR動画・CM」の放映やWEBサイト「星旅」の公開、沿線地域の名物等のイラストをモチーフとした各駅の装飾「えきいろ」の制作など、地域の魅力発信や鉄道の利用促進に向けて取り組みました。

関連事業については、二戸駅に隣接するカシオペアメッセなにやーと内で「銀河ダイニングへのへの」の営業を開始し、地元食材を生かしたメニューや乗車券とセットになった旅行商品の造成等により、地域内外に向けた地元の魅力発信や地域の活性化に努めたほか、コロナ禍による生活・行動様式の変化等に対応するため、関連事業全般について、今後の在り方の検討を行いました。

財務運営については、徹底したコスト削減を進めるとともに、鉄道施設の整備に鉄道施設総合安全対策事業費補助を活用し、「指令システム」をはじめとする老朽化した鉄道施設を更新するなど、財務運営の安定化に取り組みました。

また、県・沿線市町から「いわて銀河鉄道運行支援交付金」等の支援を受けたほか、「並行在来線鉄道事業者協議会」を通じ、国に貨物調整金制度の見直しや支援制度の拡充に関する要望を継続して行うなど、事業基盤の充実に向けた取組を行いました。

この結果、当期は純損失として283,586千円を計上しました。内訳については、営業収益は旅客運輸収入が899,543千円、鉄道線路使用料収入が2,667,945千円、関連事業を含めた運輸雑収が482,166千円、計4,049,655千円となりました。一方、営業費は、4,571,223千円となり、営業損失は512,568千円を計上することとなりました。

これに運行支援交付金等助成金収入を含む営業外収益193,256千円、支払利息等の営業外費用12,264千円、補助金等の特別利益183,675千円、固定資産圧縮損等の特別損失122,291千円、法人税等の4,394千円を加え、当期純損失は283,586千円となりました。

2. 対処すべき課題

新型コロナウイルス感染症については、今後も継続して感染防止に取り組んでいくとともに、リスク管理を徹底し、地域の旅客輸送及び日本の物流の担い手として、安全・安定輸送の確保に努めるとともに、ウィズコロナ・アフターコロナを見据えながら今後の需要の変化を捉え、新たな生活・行動様式に応じた事業の在り方などについて柔軟に対応します。

財務運営については、沿線の人口減少や新型コロナウイルス感染症の影響で当期まで継続して営業赤字となっており、営業収益の減少は今後も見込まれます。また、「指令システム」の更新など複数年計画の大規模な施設・設備の更新を進めているほか、鉄道施設の老朽化に伴う修繕費や設備更新等の工事費の増高が見込まれます。さらに、鉄道利用におけるデジタル化についても検討を進めているところです。

安全・安定輸送を第一とした計画を基本とし、国庫補助金や助成金を活用するとともに、修繕経費は資金計画に見合うよう調整を行いつつ、岩手県及び沿線市町からの支援が得られるよう引き続き協議・検討を継続します。

また、業務運営全般については、「中期経営計画(2018～2022)」の達成に向けて、別添「2022年度運営方針」に基づき、「もっと身近にIGR」を合言葉に沿線地域の関係機関・団体や沿線住民の皆さまとの連携を深めることで沿線地域の魅力向上・活性化に取り組みます。

別紙

1. 2022 年度の運営方針

2022 年度は、2013 年度に策定した「新・経営ビジョン」が計画期間の 10 年の区切りを迎えるとともに、開業 20 周年の節目を迎える年でもあります。開業以来、会社を取り巻く経営環境が大きく変化
する中、安全・安定輸送を確保し、公共交通機関の役割を果たすべく、このビジョンの実現に向けて
中期経営計画の実施に取り組んでいます。

しかしながら、2016 年度に寝台特急が運行終了になったことや沿線人口の減少により、旅客運輸収
入が大きく減少したことに加え、2020 年度からは新型コロナウイルス感染症の拡大により、さらに
厳しい経営状況が続いています。

このような中、地域の足を守ることが最大の使命であることから、2022 年度は引き続き安全・安定
輸送の確保に努めるとともに、ウィズコロナ・アフターコロナを見据えた中長期的な視点に立ち、今
後の需要の変化を的確に捉えて変革を恐れずに挑戦していき、新たな価値の創造に向けて各事業を積
極的に推進していきます。

ア 安全・安定輸送の確保

安全・安定輸送の確保を第一とし、新型コロナウイルス感染症で変化した生活・行動様式に対
応した取組や感染症対策の徹底に努めます。

イ 健全で安定的な経営

持続可能な経営のため、すべての事業において見直しを行い、収支計画及び設備投資計画をもと
に資金繰り計画を策定し、経営状況を踏まえて金融機関等と協議の上、安定的な財務運営に取り組
みます。

ウ 沿線地域との連携・協働の推進

地域のニーズを的確に捉え、広域的な視点で地域資源を有効に活用し、連携・協働しながら、
地域の振興や経営環境改善につながる取組を推進します。

2. 次期経営ビジョン策定について

2013 年度に策定した「新・経営ビジョン」が 2022 年度末で計画期間の 10 年の区切りを迎えるこ
とから、社内プロジェクトを立ち上げ、今後 10 年間の「次期経営ビジョン（2023～2032）」を策定
します。

3. 設備投資の状況

当期に実施した設備投資の総額は517,547千円で、その主な内容は次のとおりです。

・光ケーブル及び光搬送装置新設工事	142,982	千円
・支持物取替その他工事	133,020	千円
・列車接近警報装置修繕その他工事	40,962	千円
・き電区分所き電ME盤取替その他工事	32,772	千円
・第四北上川橋りょう護床ブロック新設工事	26,983	千円

4. 資金調達の状況

(株)岩手銀行、(株)東北銀行、(株)北日本銀行の地元3行と総額15億円の限度枠内で随時必要額の融資が受けられる契約を締結しており、15億円の短期資金を借入調達しています。

新型コロナウイルス感染症拡大による影響で、旅客運輸収入が大幅に減少したことから、資金繰り安定化を目的として、地元3行から3億円(コロナ売上減少対応資金)、(株)日本政策金融公庫から3億円(新型コロナウイルス感染症対策挑戦支援資本強化特別貸付)の長期資金を借入調達しています。

5. 直前三事業年度の財産及び損益の状況

区 分	第18期	第19期	第20期	第21期 (当事業年度)
営業収益(千円)	4,434,821	4,473,819	4,022,072	4,049,655
当期純利益(千円)	99,094	△52,493	△274,656	△283,586
一株当たり当期純利益(円)	2,678	△1,418	△7,424	△7,665
総資産(千円)	5,910,909	5,834,475	6,349,010	6,298,223

6. 当事業年度の末日における主要な事業内容

鉄道事業法による第一種鉄道事業及びこれに付帯関連する事業

7. 当事業年度の末日における主要な事業所

- ・本 社 岩手県盛岡市青山二丁目2番8号
- ・運輸管理所 岩手県盛岡市天昌寺町5番5号
- ・設備管理所 岩手県盛岡市好摩字上山3番地3

8. 使用人の状況

区 分	使用人数	平均年齢	平均勤続年数
男 子	214 名	45.9 歳	8.7 年
女 子	79 名	40.5 歳	7.0 年
合 計	293 名	44.4 歳	8.3 年

(注) 上記には、東日本旅客鉄道株からの出向従業員 26 名、契約社員 4 名、スタッフ社員 75 名を含んでいます。

9. 重要な親会社等の状況

当社は、岩手県から発行済株式総数の 54.06% (20,000 株) の出資を受けています。

当社は、岩手県知事が取締役会長に就任しています。

II 株式に関する事項

1. 会社が発行する株式の総数 40,000 株
2. 発行済株式の総数 (普通株式) 36,994 株
3. 当事業年度末の株主数 49 名
4. 発行済株式の十分の一以上の数の株式を有する大株主の状況

株 主 名	持 株 数
岩 手 県	20,000 株
盛 岡 市	5,858 株

Ⅲ 会社役員に関する事項

1. 取締役及び監査役の状況

会社における地位	氏 名	担当又は他の法人等の代表状況等
取 締 役 会 長	達 増 拓 也	岩手県知事
取 締 役 副 会 長	谷 藤 裕 明	盛岡市長
代表取締役社長	浅 沼 康 揮	
専 務 取 締 役	鈴 木 敦	
取 締 役	中 村 英 夫	東京都市大学名誉総長
取 締 役	藤 原 淳	二戸市長
取 締 役	佐々木 光 司	岩手町長
取 締 役	主 濱 了	滝沢市長
取 締 役	熊 谷 泰 樹	岩手県ふるさと振興部長
取 締 役	小 野 寺 美 登	一戸町長
常 勤 監 査 役	似 鳥 徹	岩手県立大学名誉教授
監 査 役	鎌 田 英 樹	株式会社アビシー岩手放送代表取締役社長
監 査 役	佐々木 孝 弘	八幡平市長

(注)常勤監査役 中嶋芳也は2021年6月21日に退任しました。

(注)監査役 田村正彦は2021年9月26日に辞任しました。

(注)取締役 田中辰也は2021年11月17日に辞任しました。

2. 取締役及び監査役の報酬等の総額

(単位：千円)

区 分	人 数	報 酬 等 の 額	摘 要
取 締 役	3	11,964	
監 査 役	2	2,471	
計	5	14,435	

IV 会計監査人に関する事項

1. 名称

有限責任 あずさ監査法人

2. 当事業年度中に辞任した又は解任された会計監査人に関する事項

該当する事項はありません。

3. 現在の業務停止処分に関する事項

該当する事項はありません。

4. 過去2年間の業務停止処分に関する事項の内、会社が事業報告の内容とすべきと判断した事項

該当する事項はありません。

V 業務の適正を確保するための体制等の整備についての決議内容

内部統制システムの整備に関する基本方針について

当社の内部統制システムの整備に関する基本方針を以下のとおり定めています。

1 取締役の職務執行が法令・定款に適合することを確保するための体制

役員はあらゆる会社の根本規範である定款及び法令に従ってその職務を遂行するとともに取締役自ら率先垂範と役員への周知徹底を図ることとする。また、監査役は取締役会等の重要な会議に出席し、取締役の職務執行の監視をより一層強化することとする。

2 取締役の職務の執行が効率的に行われていることを確保するための体制

取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するため、定期的に取り締役会を招集するほか、適宜臨時に開催するものとする。併せて、年次事業計画を立案し、全社的な目標を設定するものとする。

3 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

全社的対応は総務部を窓口とし、リスクの状況を正確に把握、適切に制御の上、健全な会社経営に努めるものとする。なお、不測の事態が発生した場合には、社長指揮下の対策本部を設置し、迅速な対応を行い、損害の拡大を防止する体制を整えるものとする。

4 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する事項

取締役の職務執行に係る情報については、適切かつ確実に定められた期間、保存・管理を行うものとする。

5 取締役が監査役に報告をするための体制

取締役は、会社の業務または業績に与える重要な事項について監査役に報告するものとし、職務の執行に関する法令違反、定款違反及び不正行為の事実を知った時は、遅滞なく報告するものとする。なお、前記に関わらず、監査役は必要に応じて、取締役に對し報告を求めることができるものとする。

VI 決算期後に生じた会社の状況に関する重要な事実

該当する事項はありません。

2021年度決算

(単位:千円、税抜)

項目	2021年度 決算 A	2020年度 決算 B	増減 C(A-B)	Cの主な増減要因
営業収入	4,049,655	4,022,072	27,583	
旅客運輸収入	899,543	883,492	16,051	運賃収入の増
線路使用料収入	2,667,945	2,651,591	16,354	営業費に連動して増
運輸雑収 関連事業収入 商品売上	482,166	486,989	▲ 4,823	商品売上の減
営業費	4,571,223	4,533,825	37,398	
人件費	1,111,092	1,093,298	17,794	
業務費	903,207	894,009	9,198	水道光熱費等の増
修繕経費	2,074,303	2,094,847	▲ 20,544	工事費精査による減
諸税	118,560	119,399	▲ 839	
減価償却費	364,061	332,272	31,789	新規取得資産の増
営業損益	▲ 521,568	▲ 511,752	▲ 9,816	
営業外収益	193,256	192,248	1,008	
営業外費用	12,264	11,776	488	
経常損益	▲ 340,576	▲ 331,280	▲ 9,296	
特別利益	183,675	397,779	▲ 214,104	2020年度は盛岡市の踏切拡幅工 事の負担金収入があったため
特別損失	122,291	336,761	▲ 214,470	固定資産圧縮損の減
税引前当期損益	▲ 279,192	▲ 270,262	▲ 8,930	
法人税等	4,394	4,394	0	
当期損益	▲ 283,586	▲ 274,656	▲ 8,930	

※千円未満端数処理の関係で、各項目の合計と合致しない場合がある。

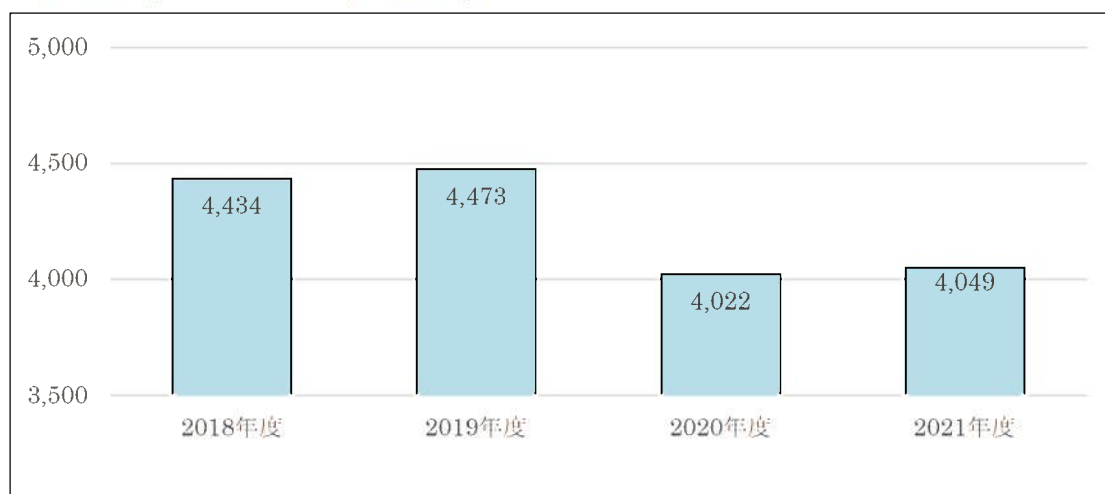
2021年度決算概要

■営業収入について

2021年度決算は「40億4,965万円」
2020年度決算より「2,758万円」の増収

旅客運輸収入の増	1,605万円
線路使用料収入の増	1,635万円
運輸雑収入等の減	▲482万円

【過去3ヵ年の営業収入推移】(単位:百万円)



■当期損益について

2021年度決算は「2億8,358万円」の赤字
2020年度決算より「893万円」の減益

あさぬま やすき
～代表取締役社長 浅沼 康揮 コメント～

2021年度も新型コロナウイルス感染症の影響を受けつつも、営業収入は2020年度比で2,758万円の増収となり、回復の兆しも見せております。また、2020年度に引き続き岩手県及び沿線市町からのいわて銀河鉄道運行支援交付金をいただいたほか、営業費の削減を図ったものの、当期損益は2020年度決算比893万円の減益となりました。

2022年度も引き続き、感染症防止対策を講じながら安全安定輸送を確保し、収支改善に向けて取り組むとともに、ウィズコロナ・アフターコロナによる新たな生活・行動様式に応じた事業に取り組んでまいります。

2021年度の輸送概況

◇ 輸送人員

【単位：人/日】

	2021年度	2020年度	増減	対比	2018年度	増減	対比
定 期	9,638	9,680	△ 43	99.6%	10,616	△ 979	90.8%
通 勤	3,914	4,044	△ 130	96.8%	4,299	△ 385	91.0%
通 学	5,723	5,636	87	101.5%	6,318	△ 594	90.6%
定 期 外	2,227	2,255	△ 28	98.8%	3,766	△ 1,539	59.1%
合 計	11,865	11,936	△ 71	99.4%	14,383	△ 2,518	82.5%

(項目ごとに四捨五入のため、合計しても合わない場合がある)

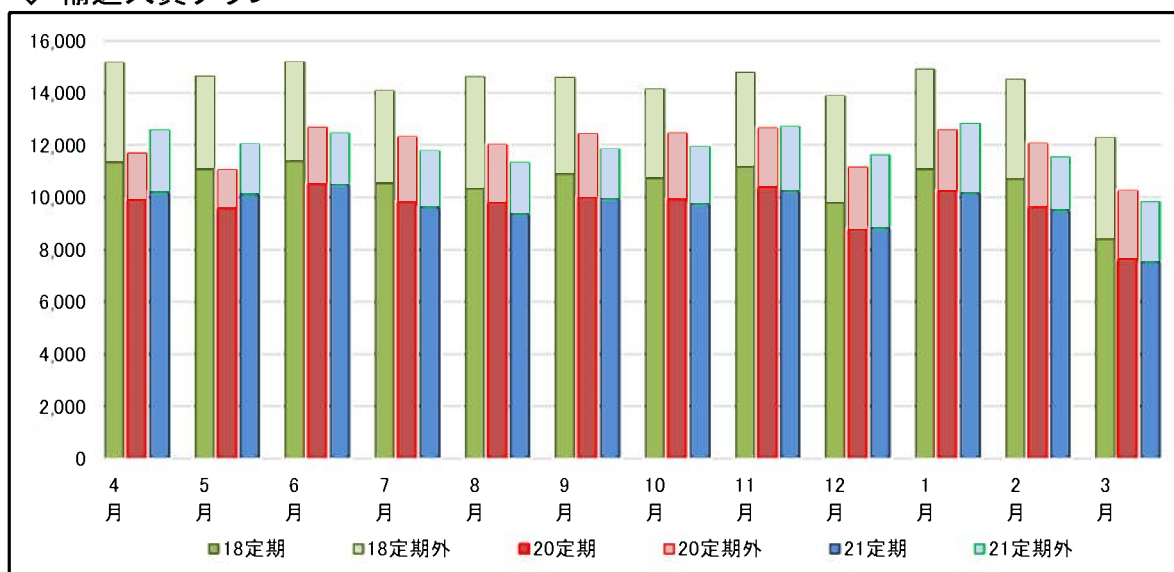
◇ 旅客運輸収入

【単位：百万円】

	2021年度	2020年度	増減	対比	2018年度	増減	対比
定 期	522	528	△ 6	99.0%	583	△ 61	89.6%
通 勤	268	277	△ 9	96.7%	303	△ 35	88.4%
通 学	254	250	4	101.4%	280	△ 26	90.8%
定 期 外	378	356	21	106.0%	665	△ 287	56.8%
合 計	900	884	16	101.8%	1,247	△ 348	72.1%

(券種毎の統計数値のため、決算数値とは異なる。)

◇ 輸送人員グラフ



◇ 概況

〔2018年度(平常時)比較〕

(通勤 定期) 新型コロナウイルスによる通勤方法の変化などにより、約1割減少しました。

(通学 定期) 少子化による高校生の減少などにより、3年間で約1割減少しました。

新型コロナウイルスの影響は限定的と見ています。

(定 期 外) 全国的な緊急事態宣言に加え、県独自の緊急事態宣言が発令されるなど、移動や飲食などの自粛が求められる期間が長く、大幅な減少が続きました。

〔前年度比較〕

(通勤 定期) テレワークの浸透や通勤方法の変化により、前年よりも更に減少しました。

(通学 定期) 2020年度の大学休校やリモート授業の反動で増加しました。

(定 期 外) 2020年度の厳しかった緊急事態宣言の反動により4月と5月は増加しました。

また、感染状況が落ち着いた11月～1月にかけて前年よりも増加しました。

その他の期間は、厳しい感染状況により前年を下回りました。

取締役候補者の選任について

当社の取締役は、第21回定時株主総会終結の時をもって全員任期満了となるので、後任の取締役候補者を次のとおり選任することについて承認を求める。

取締役候補者

(50音順)

氏名	主な職業
浅沼 康揮	I G Rいわて銀河鉄道株式会社代表取締役社長
小野寺 美登	一戸町長
熊谷 泰樹	岩手県ふるさと振興部長
佐々木 光司	岩手町長
主濱 了	滝沢市長
鈴木 敦	I G Rいわて銀河鉄道株式会社専務取締役
達増 拓也	岩手県知事
谷藤 裕明	盛岡市長
藤原 淳	二戸市長

(以上9名)

アクションプラン2021 総括



人を 地域を 未来へつなぐ、かけがえのない鉄道をめざします

1

「安全・安心」を第一に、 地域の旅客輸送・日本の物流の担い手として より信頼される鉄道であり続けます

- ◆ 社員一人ひとりが安全を最優先に業務に取り組む。
【さらなる安全・安心への取組】

1-1 防災マニュアルの浸透、事業継続計画の充実、 避難誘導等の防災訓練の実施など、自然災害への対応力を強化



対策本部運営訓練（防災の日）



総合防災訓練（消火訓練の様子）

必要により各種計画を見直していくとともに、定期的な訓練を実施することで、危機管理能力の向上や防災意識の醸成を図りました。

1-2 各種訓練を関連機関と連携して実施するほか、事故・輸送障害 への対応力を強化するとともに、万一事故が発生した場合、 被害者の救護をはじめ適切な支援を行う



踏切事故防止運動（境田川原踏切）



実車運転訓練会（列車抑止手配訓練の様子）

関連機関と連携して踏切事故防止運動を実施するなど、地域における交通事故防止啓発活動を実施しました。また、訓練列車を使用した訓練を実施し異常時対応能力の強化に努めました。

◆ 鉄道施設の信頼性を確保する。
【線路・電路設備の品質の維持・向上】

1-3 計画的な設備更新により修繕費を削減するとともに、 設備品質の維持・向上を図り、信頼性を確保する



トンネル内道床(砕石)交換工事の様子



分岐器全交換工事の様子

設備投資計画の定期的な精査・更新を行っていくとともに、設備の延命化・スリム化によるランニングコストの圧縮に取り組みました。

1-4 地震や豪雨等、自然災害に対して強い設備を構築する



護床ブロック新設
(豪雨による鉄道河川橋梁の流失・傾斜を防止するために実施した洗堀防止工)

自然災害に強い設備を構築し、安全・安定輸送を確保しました。

1-5 技術勉強会や各種教育機関への計画的な派遣訓練を 継続的に実施することで、プロパー社員の技術力を確立し、 これまで培ってきた鉄道保守技術の継承を進める



設備管理所安全報告会
(安全に対する意識の醸成を目的とした勉強会)



設備管理所安全技術勉強会
(墜落制止器具の取扱い訓練)

計画的に勉強会や訓練を実施して技術力・安全意識の継承を進めました。

1-6 車両検修に係る作業の円滑化を図るとともに、車両の延命化を図る



車両全軸取替作業の様子



車両検修作業（パンタグラフ擦り板交換作業の様子）



車両検修作業（車両モーター取り外しの様子）

車両の老朽化に対して計画的な修繕を実施し、車両の適切な維持管理に努めました。

1-7 将来の車両更新に備えて、車両製造・導入動向を調査するとともに、より効率的な車両運用のあり方や輸送需要や異常時対応をも考慮した必要車両数について、関係機関と検討を進める

車両更新プロジェクトチームを発足し、今後の車両更新について精査しています。コロナ禍による影響について情報収集を継続し、並行して岩手県及び沿線自治体と意見交換を実施し、情報共有に努めるとともに関係機関と調整を図ります。

2

誰もが利用したくなるような お客さまにやさしい 魅力的な鉄道をめざします

◆お客さまの視点に立ったサービスを提供する。
【顧客ニーズに沿ったサービスの提供等】

2-1 “お客さまの声”をはじめとしたサービス向上に資する 情報の収集と分析を進めるとともに、お客さまに気持ちよく ご利用いただけるサービス知識・技術の向上を図る



七夕装飾(巢子駅待合室)



奥中山 夢あかり(奥中山高原駅)

お客様の声を迅速に全社共有し、線路脇の除草など、早急な対応に努めました。
また、サービス推進委員会における活動を通じて、駅等の清掃活動や四季のイベントに
応じた駅舎装飾をするなど、お客様に気持ちよくご利用いただけるサービスに努めています。

【地域特性に応じた発信力の強化】

2-2 沿線市町や地域の皆様と連携しながら、駅を中心とした 地域活性化に取り組むとともに、ニーズに沿った企画や地域に 関する情報を発信し、地域に根差した会社運営を行う



子ども鉄印コンテスト表彰式(青山駅南口)



二戸駅開業130周年記念イベント(駅前通りマルシェ)



テレビCMの放映 (IBC岩手放送・テレビ岩手)



セタ飾りの設置 (小鳥谷学童クラブによる装飾)



沿線の名物・名所イラスト①
(つり革取付イベント:作業の様子)



IGR×滝沢市フォトコンテスト (最優秀賞作品)



沿線の名物・名所イラスト②
(駅を彩る装飾・ポスター)



北いわての未来を切り拓くため、
一緒に考え、活動してみませんか?
「北いわて産業・社会革新推進コンソーシアム」への参加



星旅 (沿線観光スポット等を紹介するWEBサイト)



地域の皆さまと連携し、各種イベントの企画やイベントへ参加するなど、交流を深めつつ賑わいの創出に努めました。また、HPやSNSによる情報発信や車内広告等による地域の魅力発信に取り組みました。IGRパートナーズ会の活動報告会はコロナ禍の影響により実施できませんでしたが、銀河ファンクラブにおいては、ファンクラブ優待特典を拡充し、会員の拡大に繋げました。

◆お客さまにとって便利で利用しやすい鉄道をめざす。
【駅や列車の利便性向上】

2-3 “お客さまの声”や現場の提言を反映し、 限られた資源の中でより良いダイヤを構築する

働き方改革や新型コロナウイルス感染症による行動変容及び主要駅における乗降調査の結果を考慮し、2022年3月12日にダイヤ改正を実施しました。今後もお客さまの声を反映させながら、関係機関と調整のうえ、より利用しやすいダイヤを目指します。

2-4 駅や列車の利便性向上について、具体的な検討を行う

プロジェクトチームを立上げ、ICカードやキャッシュレス乗車システムの導入について情報収集し、検討しています。また、リアルタイムに近い運行情報提供に資する設備の導入についても検討を進めています。

【バリアフリー環境の整備】

2-5 バリアフリーに関する知識・技術の向上に取り組み、 お客さまにとって利用しやすい鉄道を目指します



トイレ改修（金田一温泉駅）



ハンディキャップ体験



車椅子対応訓練

二戸市からの支援を受け、トイレを改修し、お客さまの快適性の向上を図りました。また、教育・訓練も継続し、より安心してご利用いただけるよう技能の向上に努めました。

3 地域のかげがえのない足として 将来にわたり健全で安定的な経営に努めます

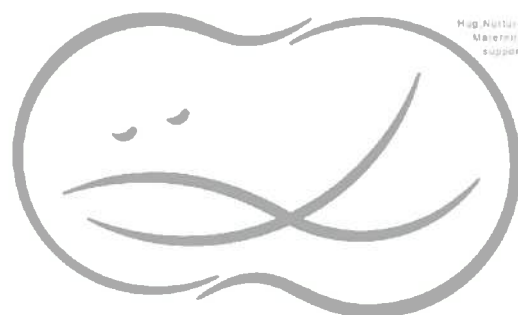
◆地域鉄道を担う“民間”会社としての社会的な責務を果たす。
【黒字経営の継続】

3-1 徹底した経費削減に努め、費用と収入の均衡を図る

ダイヤ改正に合わせ、駅の営業体制を見直すなど、経費の圧縮に努めました。
今後も継続して経費削減に取り組みます。

3-2 鉄道旅客事業及び関連事業については、 増収増益に繋がる取組を強化する

抱きしめ、はぐくむ。妊婦さん応援きっぷ



IGR HUG PASS

IGR HUG PASS

もりもりフリーパス (IGR×青い森鉄道共同企画切符)

北いわてMaaS



銀河ダイニング へのへの (二戸駅隣接「なにやーと」内)※2021.4.16OPEN



びすとろ銀河 (青山駅南口)



ラジオdeウォーキングin天台寺(カシオペアFM主催)



山田のカキ小屋ランチと南リアス線 (いわて旅応援プロジェクトに係る取組)



【石神の丘】ツアー (IGR日帰りパック)

コロナ禍においても、増収増益に繋がる施策を検討し、取り組みました。

3-3

貨物調整金制度の維持・継続等について要請等を行い、十分な理解を得られるよう活動する

整備新幹線開業に伴ってJRから分離された並行在来線を引き継いだ鉄道事業者8社からなる、並行在来線鉄道事業者協議会を通じて要請を行うなど、活動を継続します。

3-4 住民の利便性向上と地域の発展に大きく資する事業について、引続き沿線市町・県とともに検討する

駅舎の改築や新駅の設置など、引き続き沿線市町・県と検討していきます。

3-5 未利用地や未利用スペースの有効活用により収益の増加を図るとともに、地域のまちづくりに貢献する



幸呼楽Japan商品の展示・販売（びすとろ銀河併設のレンタルスペースにて）



コインロッカーの設置（浜民駅・岩手川口駅）



ラッピング自販機
滝沢市×IGR
（滝沢駅）



ラッピング自販機
元宝塚の女優・園井恵子さんイラスト
（岩手川口駅）



いちドキ広場（一戸駅舎内交流スペース）

引き続き未利用スペースの有効活用に取り組み、増収を図るとともにまちづくりに貢献します。

3-6 道路と公共交通双方の利便性向上のため、地域の交通計画を踏まえ、マイカーから公共交通機関へのシフトを図る

県及び沿線市町の地域公共交通計画づくりに参画し、マイカーから公共交通機関へのシフトを図られるよう取り組んでいきます。

◆ 徹底した効率経営を追求するとともに関連事業を展開し、健全な経営を維持する。
【長期的に安定したキャッシュフローの確立】

3-7 設備投資に要する資金の調達が必要となることから、 長期的な視点でキャッシュフローの健全化を図るため 関係機関と検討を進める

設備投資には多額な資金を要することから、関係機関とキャッシュフローの健全化を図るため、県及び沿線市町と検討・調整を進めています。

【人材の育成と適正な人員管理】

3-8 採用活動を積極的に行い、優秀な人材を確保するとともに、 外部研修機関の活用や他社への派遣研修等社員研修の充実を図り、 社員一人ひとりの知識技能向上に取り組みます



職場体験学習



インターンシップ・企業説明会



新入社員入社式



企業リーダー研修

採用活動においては、定例的なインターンシップに加え、企業説明会を車両内で行うなど、自社でしか出来ない形で開催しました。U・Iターンを含めた経験者採用を目的に、新たにマイナビ主催の転職フェアに参加するなど、優秀な人材の確保に努めました。社内においては、企業派遣研修や階層別研修等を計画的に実施したほか、外部機関を活用し、より効果的な研修となるよう工夫しました。新たな取組として、ブラザーシスター制度を開始し、社員一人ひとりの指導・育成に注力しました。

3-9

今後、必要とされる人材の育成に向けて、育成の方向性等を明確にするとともに、働き方の見直しや業務改善等による時間外労働の削減と社員のモチベーションの向上を図る

リフレッシュ休暇制度を2022年4月から開始する等、社員の休暇制度の拡充を図りました。引続き、働きやすい環境づくりに取り組んでいきます。

【業務改善の推進】

3-10

業務改善の取組を全社的な取組に発展させるとともに、業務改善意識の浸透を図る



ちりつも発表会の様子

業績向上・業務改善を目的とした社内公募企画【通称:ちりつも】の取組を新たに開始しました。今後も業務改善マインドを常に持ち、社業の発展に努めます。

【その他】

3-11

今後の経営環境の変化に対応しうる次期経営ビジョンの策定



次期経営ビジョン策定会議の様子

IGRの未来の在るべき姿を社内外に示し、社業の更なる発展に一丸となり取り組んでいくため、次期経営ビジョン策定プロジェクトを立上げ、今後10年間の『次期経営ビジョン(2023年度~2032年度)』の策定を進めています。

沿線関連等の取組について

(2022年3月～5月)

1. 「いわてお仕事体験フェスティバル in APPI」について



4月29日～5月5日（5/2除く）、安比高原で開催されたイベントに参加しました。これは、県内在住の小学生が実際に岩手県内の企業のお仕事を体験することにより、将来的に地域定着率の向上につなげることを目的として企画されたものです。IGRのブースでは、駅員と運転士のお仕事を体験していただきました。イベント期間中、約180人のお子様にご参加いただきました。

2. 「こども鉄印コンテスト」と「こども鉄印の発売」について



2021年12月～2022年1月に募集した「こども鉄印コンテスト」にご応募いただいた計55作品の中から、小学校低学年部門・小学校高学年部門・中学生部門の最優秀賞を1作品ずつ決定し、2月23日に表彰式を開催しました。また、この受賞作品3点を実際に鉄印化し、5月5日（こどもの日）から数量限定で記帳の受け付け・発売を開始しました。

3. 「一戸町奥中山高原宿泊キャンペーン」に係る取組について



銀河鉄道観光では、ホテル奥中山高原の宿泊・IGRフリー乗車票・“奥中山高原にぎわい市”おたのしみチケットがセットになった「IGR宿泊パック 2日間」を発売しました。また、奥中山高原・朝朱の湯の駐車場にて開催中の“奥中山高原にぎわい市”では、5月5日のこどもの日にあわせIGRミニSLを運行し、集客に貢献しました。

4. 県北地域への観光客の誘客促進に係る取組について



銀河鉄道観光は5月7日に、二戸市のご当地キャラの『浄法寺のねこ』とコラボした日帰りツアーを催行し、県内外から22名のお客様にご参加いただきました。このツアーでは、2月17日から運行を開始した『漆』・『縄文』県北ラッピング車両を貸し切り、参加者の皆様には車内でのクイズ大会・ねこゆかりの浄法寺地区めぐり・特製弁当の昼食・ねこと一緒に踊るさんさ踊り体験などをお楽しみいただきました。

5. 沿線の名物・名所のイラスト募集企画について：つり革取付

【いわて銀河鉄道利用促進協議会事業】



IGRの沿線の魅力を再発見し発信することを目的として2021年12月～2022年1月に募集したイラストを、つり革に取り付けるイベントを3月26日に開催しました。また、今回イラストをご応募いただいた方の中から8組（計16名）の親子をご招待し、イラストを取り付ける作業にご参加いただきました。この“つり革イラスト列車”は3月29日から運行を開始し、2023年3月頃まで運行予定です。

（同企画の応募イラストから作成された各駅デザイン「えきいろ」については別紙参照）

沿線の名物・名所のイラスト募集企画について：駅装飾「えきいろ」 【いわて銀河鉄道利用促進協議会事業】

IGR沿線の名所・名物イラスト募集企画にご応募いただいたものをモチーフとして、各駅のデザイン「えきいろ」を作成しました。各駅に装飾を施した他、全駅のデザインを掲載したポスターを駅および列車内に掲出しています。今後は、各駅デザインを紹介するポスターの掲出のほか、駅名標やグッズ等に展開することを検討しています。

全駅のデザインを掲載したポスター



各駅デザインを個別に紹介(ポスター加工して掲出予定)

1. 盛岡駅



2. 青山駅



3. 厨川駅



4. 巣子駅



5. 滝沢駅



6. 渋民駅



7. 好摩駅



8. 岩手川口

えきいろ
EKI-IRO

IWATE KAWAGUCHI

いわて春みどり (すいどグリーン)

お手紙の型をとりまして、ブランドのイメージカラー「すいどグリーン」をモチーフとしたデザインです。
 お手紙の型をとりまして、ブランドのイメージカラー「すいどグリーン」をモチーフとしたデザインです。
 また、口紙の型をとりまして、ブランドのイメージカラー「すいどグリーン」をモチーフとしたデザインです。
 いわて春みどりは、東北の代表的な春みどりの産地である岩手県産の春みどりをモチーフとしたデザインです。
 色は、いわて春みどりの甘みからイメージしたものです。

IGT

9. いわて沼宮内

えきいろ
EKI-IRO

IWATE NUMAKUNI

フィールドホッケー (いいしのグレー)

岩手県で盛んなスポーツのホッケーをモチーフとしたデザインです。
 岩手県では、世界レベルで活躍する選手を多く輩出しています。また、1993年には、国内唯一の人工芝のホッケー場が完成しました。
 色は、岩手県の気候のよから「いいしのグレー」が由来からイメージしたものです。

IGT

10. 御堂駅

えきいろ
EKI-IRO

MITO

北上川の源泉 (ゆはすブルー)

御堂駅の北にある御堂川源流の「ゆはすの泉」の意をモチーフとしたデザインです。
 母川の泉は、日本の重要な水資源として知られています。平野町には、御堂川、岩手川、荒川が流れており、御堂川は、御堂川源流の「ゆはすの泉」が湧き出しています。また、御堂川源流の「ゆはすの泉」が湧き出しています。また、御堂川源流の「ゆはすの泉」が湧き出しています。
 色は、源泉からイメージしたものです。

IGT

11. 奥中山高原駅

えきいろ
EKI-IRO

OKUNAKAYAMA KOGEN

いわて子どもの森 (ゆきのクリーム)

奥中山高原駅の北にある「いわて子どもの森」をモチーフとしたデザインです。
 奥中山高原駅は、四季を通して美しい自然が楽しめる駅です。いわて子どもの森は、子どもたちの憩いの場であり、また、自然の恵みを感じることができる場所です。
 色は、雪の「白」と「クリーム」からイメージしたものです。

IGT

12. 小繫駅

えきいろ
EKI-IRO

KOTSUNAGI

いのちのノート (あつげスピンク)

小繫駅にある「いのちのノート」をモチーフとしたデザインです。
 小繫駅は、地域の歴史や文化を紹介する「いのちのノート」を発行しています。また、2008年に発行された「いのちのノート」が発行されています。
 色は、いのちの「あつげスピンク」からイメージしたものです。

IGT

13. 小島谷駅

えきいろ
EKI-IRO

KOZUYA

藤島のフジ (ふじパープル)

小島谷駅の南にある藤島のフジをモチーフとしたデザインです。
 藤島のフジは、自給自足のまちづくりの一環として、地域住民が協力して育てられています。また、フジの葉は、地域の文化や歴史を伝える役割を果たしています。
 色は、フジの葉からイメージしたものです。

IGT

14. 一戸駅

えきいろ
EKI-IRO

ICHINOME

御所野遺跡 (どきどきブラウン)

一戸駅の南にある御所野遺跡をモチーフとしたデザインです。
 御所野遺跡は、縄文時代の遺跡であり、1970年代に発掘されました。また、御所野遺跡は、縄文時代の遺跡であり、1970年代に発掘されました。
 色は、御所野遺跡の土の色からイメージしたものです。

IGT

15. 二戸駅

えきいろ
EKI-IRO

NINOME

うろしのうた (あわんレッド)

二戸駅の南にあるうろしのうたをモチーフとしたデザインです。
 うろしのうたは、二戸町の伝統的な文化であり、また、うろしの油は、地域の文化や歴史を伝える役割を果たしています。
 色は、うろしの油からイメージしたものです。

IGT

16. 斗米駅

えきいろ
EKI-IRO

TOMAI

にのへの宝箱 (やまもりグリーン)

斗米駅の「斗米」という地名をモチーフとしたデザインです。
 斗米駅は、地域の歴史や文化を紹介する「にのへの宝箱」を発行しています。また、斗米駅は、地域の歴史や文化を紹介する「にのへの宝箱」を発行しています。
 色は、斗米の緑からイメージしたものです。

IGT

17. 金田一温泉駅

えきいろ
EKI-IRO

KINTACHI ONSEN

座敷わらし (しまわせのインディゴ)

金田一温泉駅の「座敷わらし」をモチーフとしたデザインです。
 座敷わらしは、金田一温泉の伝統的な文化であり、また、座敷わらしは、地域の文化や歴史を伝える役割を果たしています。
 色は、座敷わらしの藍染めからイメージしたものです。

IGT